

2016 新春山行「上州・十二ヶ岳」

日程：2016年 1月8日

メンバー：会員 10名（男女各5名、L=あかざわ、SL=ミノル）

報告：おおつか

燦々と陽光輝く澄み切った青空の下、そこだけが天空に突き出たような山頂は 360 度遮るものもない絶好の展望台であった。北側には越後と江戸を結んだ三国街道中山ノ宿の向こうに真っ白く輝く谷川連峰の山なみ、頭を東に廻せば赤城山から遥か男体山など日光の連山が霞み、南側には伊香保温泉の先に榛名山から秩父の山々、西側には浅間山が大きい。ここは上州・三並山連山の一角、十二ヶ岳 1,201m の山頂。恒例の赤澤さん企画の 2016 新春山行。この上天気、今年は幸先良いスタートになりそうだ。

それにしても、十二ヶ岳という珍しい山名は、全国で3箇所あるそうで、山名の由来は定かではないが、甲斐の御坂山地のそれは稜線に尖ったピークが一ヶ岳から順に十二ヶ岳まで12個連続し、また奥飛騨のそれは山頂から御嶽、乗鞍、穂高、笠、白山など12ヶ（沢山の意）の高峰が望めることからの命名と言われるが、さてここ上州の十二ヶ岳は如何なる由来があるのか。山頂からの展望が素晴らしいので後者の類かも知れないが、リーダーの言では何やら山岳信仰に関係しているらしいとのこと。昔「十二講」とか「十二神社詣り」とかいう土着信仰があったそうで、そういえば、登山口の集落には庚申塚や石仏が祀られており、また、山道の途中の大岩には入道坊主などという名前がついていた。

さて、余談はさておき。JR 吾妻線の無人駅「小野上駅」に着くと、ミノルさんが待っていて、車で駅から林道の登山口まで3回に分けて我々をピストン輸送してくれた。歩けば1時間半以上掛かるが、これは大助かりであった。聞けば、前夜は隣町の小野上温泉に泊まって我々の輸送に備えてくれていたそうで、いつものことながら有り難いことである。

入道坊主の大岩がある林道から山道に入る。所々に急な坂道もあるが、ブナやツツジがすっかり葉を落したフカフカの落ち葉の絨毯が足に気持ち良い。山道は小さな谷や山稜を縫うようにトラバースしながら高度を上げて行くが、落葉したブナの樹林を透かして赤城山や榛名山など上州の山々が頭を出してくる。頂上に近づくと、道は大きな岩頭が露出した急坂の男坂と、緩やかに巻いて登る女坂に分かれた。脚に持病を持つ小生は、同病相哀れむトモ姐さん、マリ姐さんと共に女坂を登った。狭い山頂は我々だけの貸し切り奥座敷だった。ブルーシートを拡げてイサヲさんが里で仕入れてきた地酒のお神酒で今年の山行の安全を祈願し、甘酒やコーヒーを頂きながらの 360 度大展望を楽しんだ新春の一日であった。

<コースタイム>

9:50 JR 吾妻線・小野上駅 10:00~(車)~

10:15 駐車場 10:20~10:50 入道坊主 11:10~

12:50 十二ヶ岳 13:50~15:25 駐車場 15:30

~(車)~16:00 小野上駅 16:53 発電車乗車

